



富士電機ホールディングス株式会社

## 2008年度 第1四半期 (4月1日 - 6月30日) 業績 今後の業績見通しに関するお知らせ

### 株主の皆様へ

株主の皆様には、去る7月29日付の業績予想の変更により、大変ご心配をおかけしておりますこととお詫び申し上げます。

ここに2008年度の第1四半期(4-6月)業績、および今後の業績見通しについてご報告申し上げます。

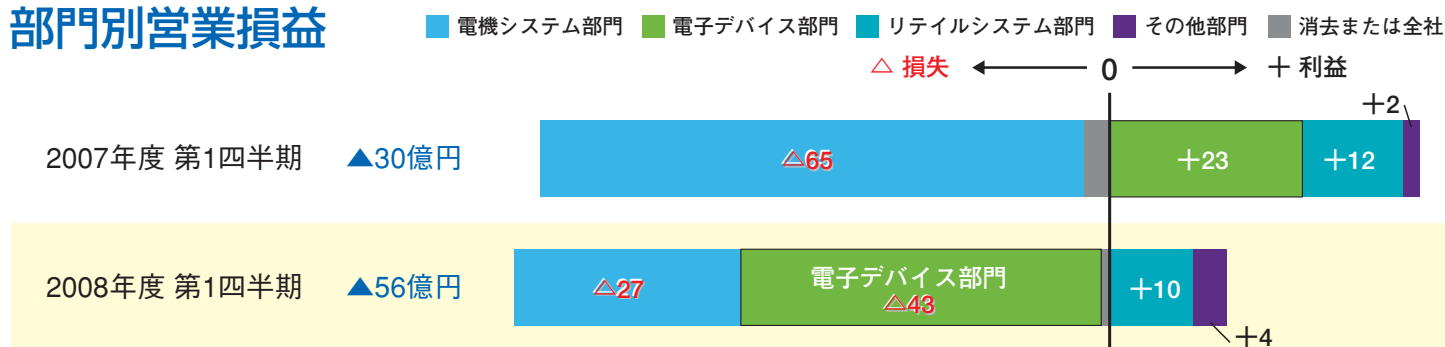
当第1四半期におきましては、全般的に為替のドル安・円高の進展、素材価格の高騰などの影響を受け推移しました。

なかでも、前年同期に利益を計上し、当社グループの収益面の牽引役として位置付ける『半導体』・『ディスク媒体』の2つの事業において、想定外の悪化に見舞われ、多額の損失計上を余儀なくされました。この結果、当第1四半期の連結業績は、次のとおりとなりました。



|      | 2007年度<br>第1四半期 |   | 2008年度<br>第1四半期 | 前年同期との比較                     |
|------|-----------------|---|-----------------|------------------------------|
| 売上高  | 1,829億円         | ▶ | 1,715億円         | 6%減                          |
| 営業損益 | ▲30億円           | ▶ | ▲56億円           | 26億円の損失増                     |
| 経常損益 | ▲18億円           | ▶ | ▲49億円           | 30億円の損失増                     |
| 純損益  | ▲4億円            | ▶ | ▲66億円           | 61億円の損失増<br>特別損失として構造改革費用を計上 |

### 部門別営業損益



(注) 機器・制御部門の駆動制御分野を電機システム部門に事業統合したことなどに伴い、2008年度より部門区分を従来の5部門から4部門に変更しました。

以上の厳しい環境変化を真摯に受け止め、第2四半期以降の経営計画を徹底的に見直し、その結果、誠に遺憾ながら、去る7月29日に中間期および通期の業績予想を次頁のとおり変更させていただきました。

なお、2008年度の配当につきましては、前年度と同額据え置きを予定しております。

今般、変更しました予想値は、現時点で想定されるリスクを最大限織り込んでおります。

富士電機グループとしましては、この数値を“不転の水準”として位置付け、ステークホルダーの皆様への信用回復にグループの総力をあげて取り組んでまいりたいと覚悟しております。

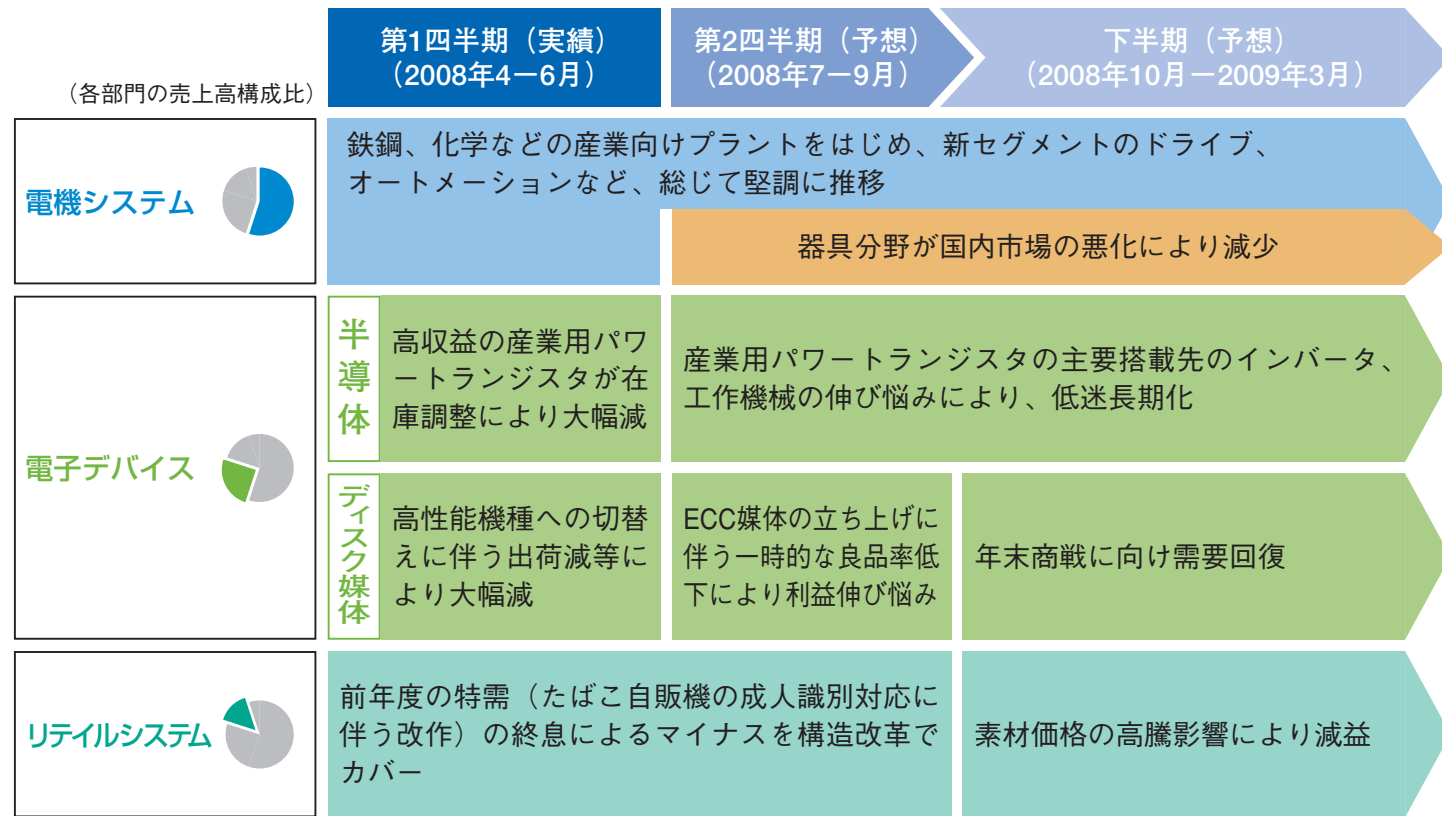
株主の皆様におかれましても引き続きのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

取締役社長 伊藤 晴夫

# 7月29日発表の2008年度業績等の見通し

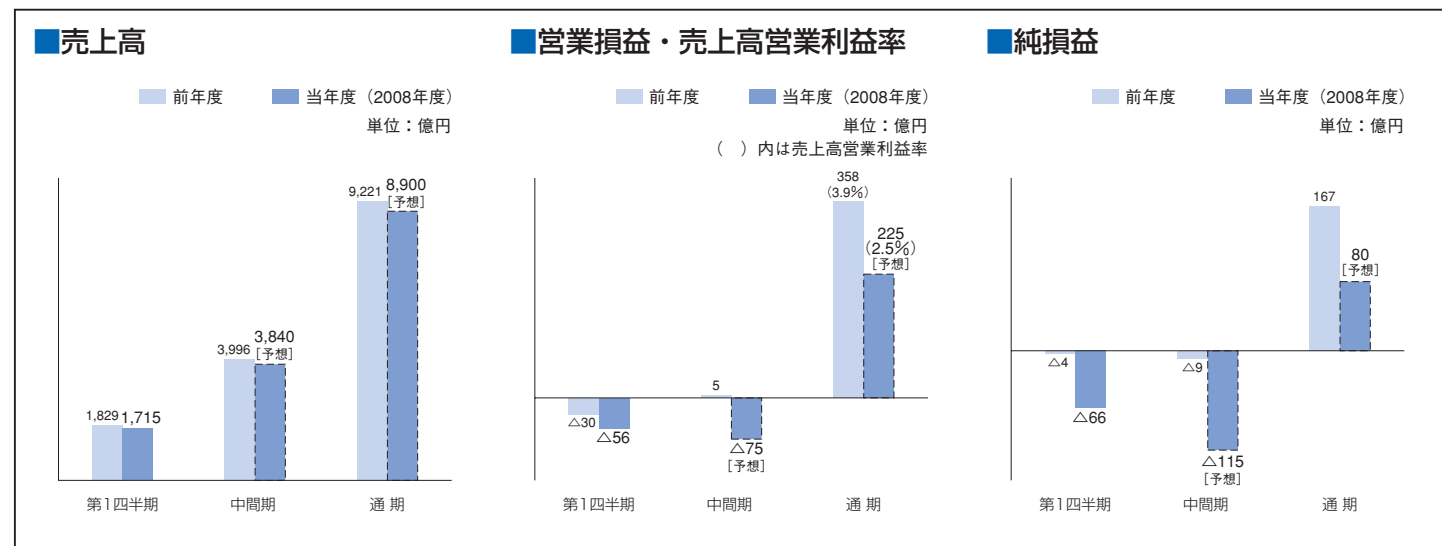
|          | ■ 中間期     |           | ■ 通 期       |           |
|----------|-----------|-----------|-------------|-----------|
|          | 今回変更      | (変更前)     | 今回変更        | (変更前)     |
| 売上高      | 3,840億円   | (4,000億円) | 8,900億円     | (9,250億円) |
| 営業損益     | △ 75億円    | (5億円)     | 225億円       | (420億円)   |
| 経常損益     | △ 80億円    | (5億円)     | 225億円       | (420億円)   |
| 純 損 益    | △115億円    | (△70億円)   | 80億円        | (200億円)   |
| 1株当たり配当金 | 4円 前年度と同額 | (未定)      | 年間8円 前年度と同額 | (未定)      |

## 2008年度の各事業の概況

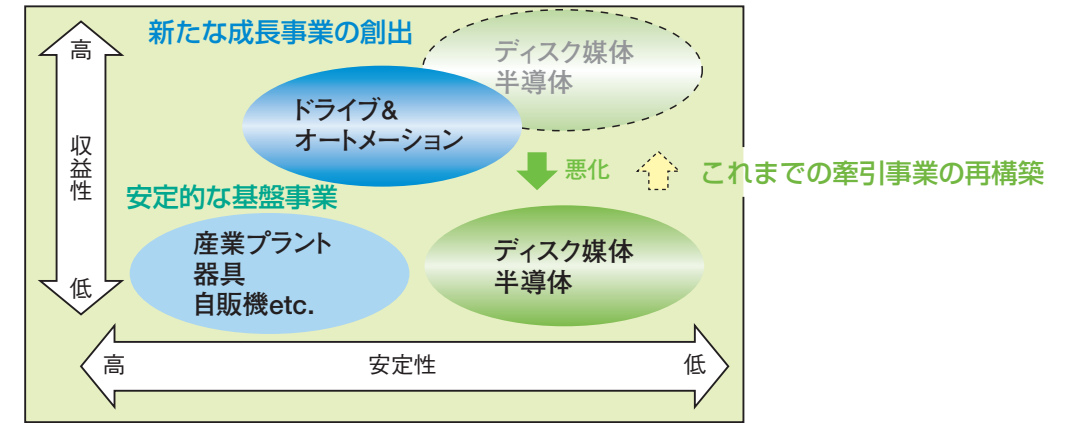


(注) 上記の円グラフは2008年度通期の売上高の見通しにおける部門間の内部取引を消去する前の金額に基づき表示しております。

## 2008年度の業績推移



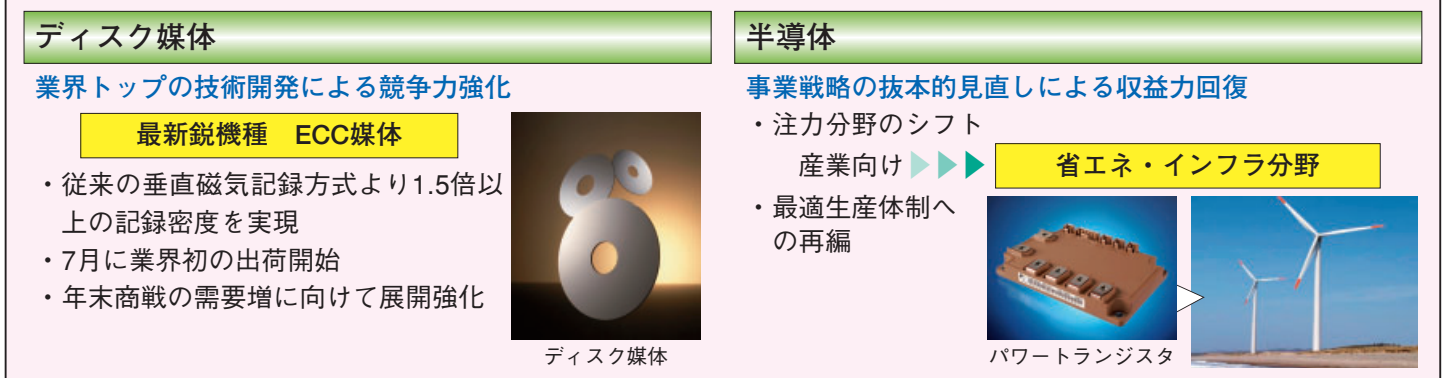
## 事業ポートフォリオの再構築



## 新たな成長事業の創出

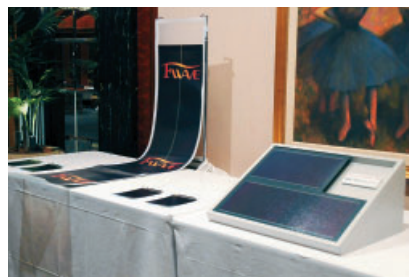


## これまでの牽引事業の再構築



6月24日、ウェスティンホテル東京（東京都目黒区）において第132回定時株主総会を開催しました。当日は過去最高となる441名のご出席を賜り、書面、インターネットによる事前行使を含め、約80%の議決権行使をいただき、全議案について原案どおり承認可決いただきました。

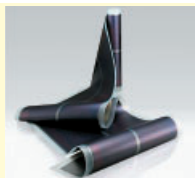
また、株主総会の終了後に、伊藤社長による経営方針の説明会を開催するとともに、今後の注力製品である太陽電池の展示や自販機の実演を行い、多数の皆様にご覧いただきました。



## 総会 Q&A

**Q** 今後の伸長分野の太陽電池にどのように取り組んでいくのか。

**A** 当社グループの太陽電池は、フィルム基板を用いた薄膜系で、「薄くて・軽くて・曲がる」特長を有しています。今後も欧州をはじめ需要拡大を見込んでおり、2006年に建設した熊本工場の生産能力増強などにより、事業拡大に努めてまいります。



## 役員体制

株主様のご承認に伴い、次の役員体制をスタートさせました。

|                 |           |       |           |       |           |
|-----------------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|
| 代表取締役<br>取締役社長  | 伊藤 晴 夫    | 社外取締役 | 正 田 英 介   | 常勤監査役 | 吉 田 克 巳   |
|                 |           | 社外取締役 | 工 藤 正     | 常勤監査役 | 平 田 敬 一 * |
| 代表取締役<br>取締役副社長 | 中山 克 志    | 社外取締役 | 黒 川 博 昭 * | 社外監査役 | 長 濱 毅 毅 * |
|                 |           | 取 締 役 | 白 倉 三 徳 * | 社外監査役 | 藤 田 讓 紘 * |
| 代表取締役<br>取締役副社長 | 北 澤 通 宏 * | 取 締 役 | 重 兼 壽 夫 * | 社外監査役 | 和 田 紘 紘 * |
|                 |           | 取 締 役 | 西 垣 博 志 * |       |           |
|                 |           | 取 締 役 | 濱 田 隆 道 * |       |           |
|                 |           | 取 締 役 | 辻 正 教     |       |           |
|                 |           | 取 締 役 | 佐 藤 恵 二   |       |           |

\*印は新任役員

## 株券をお手元で保管されている方へ

2009年1月に実施予定の「株券電子化」に伴い、上場会社の発行する株券はすべて無効となります。このとき、株券がご本人以外の名義となっている場合には、株主としての権利を失う場合がありますので、株券をお手元で保管されている場合には、念のため株券が本人名義であることをご確認願います（詳細は、同封のリーフレットをご確認ください）。また、株券をお手元で保管されている場合は、本人名義であっても、「株券電子化」の前後約1ヶ月程度は売却できないこととされています。利便性・安全性の観点から、証券会社を通じた「ほふり」のご利用をご検討ください。

## 1,000株未満の株式（単元未満株式）をお持ちの方へ

「株券電子化」に伴い、1,000株未満の株式は、証券会社で管理している場合を除き、自動的に開設される「特別口座」にて管理されます。

この「特別口座」は、株式を売買するための口座ではありませんので、「株券電子化」の実施後に買増し等により単元株式（1,000の整数倍の数の株式）となった場合、この株式を売却するためには証券会社にてご本人の口座を開設し、残高を移し替える必要があります。

今般、この単元未満株式をお持ちの株主様に限り、1,000株までの買増し、または処分のお手続き書類を同封しましたので、この機会に単元未満株式の整理をご検討くださいますようお願い申し上げます。

お手続きの詳細につきましては、下記の当社株主名簿管理人までお問い合わせください。

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）